



株式会社ニデック 環境報告書 2015

NIDEK Environmental Report 2015



THE ART OF EYE CARE



目次

環境経営の推進にあたり・方針

環境経営責任者からのメッセージ	2
環境方針	3
環境管理推進組織図	4

環境活動

2014年度環境保全活動の目標と実績	5
2015年度環境保全活動の目的・目標と設定趣旨	6
工場の環境負荷概要	7-9
2014年度環境パフォーマンス	
CO2排出量 (参考: 浜町・大沢工場太陽光発電実績)	10
廃棄物量／PRTR法対象化学物質使用量	11
環境調和型製品のご紹介	12
エネルギー／資源消費量・廃棄物排出量の推移	
電力／重油	13
市水／最終廃棄物	14

社会活動・企業情報

CSRに関する取り組み	15-16
企業概要	17
工場概要	18
報告書基本情報／お問い合わせ先	19

事業活動を進める上で、企業利益と同様に環境経営を重要と考えております。



当社は医療に関わる企業として、社会や環境との調和を図り持続可能な未来へ貢献する、地球にやさしい環境経営に努めております。

地球温暖化問題への対応や良好な生活環境の維持向上、廃棄物の削減、リサイクルの促進など環境保全のレベルアップに向けた取り組みを継続しております。

社会からの期待に応えるとともに、きめ細かな環境負荷軽減対策を実施し、さらなる成長を目指します。

現在は環境活動の報告として本報告書をまとめておりますが、今後、活動を拡張してより高次の報告ができるよう、活動の充実を図る所存です。

本報告と当社のウェブサイトを通じて、当社の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2015年7月10日

環境経営責任者
常務取締役
管理本部 本部長
手塚 勉

当社は、Eye & Health Care の担い手として医療機器等の製造、販売及びサービス活動を展開している。企業の社会的責任と地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的に行なうものとする。

1. 事業活動に伴う環境側面が環境に与える影響を的確に捉え、環境目的、及び目標を定め、全社員で取り組み、環境負荷の低減及び地球温暖化防止を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。環境目的及び目標は定期的に見直し、必要に応じて改定する。
2. 環境に係わる法律、規制、条例等を順守し、利害関係者の意見を尊重する。
3. 事業活動、製品の製造及びサービスが環境に与える影響を考慮し、特に次の事項について重点的に環境保全活動を推進する。
 - (1) 製品の環境調和
主力製品から、有害物質の排除を促進するとともに、グリーン調達を推進する。
 - (2) 省エネルギー
エネルギー消費の少ない製品設計及び生産プロセスの導入等により省エネルギーを推進する。
 - (3) 廃棄物削減・省資源
資源の有効利用を図るとともに、本来の「ゼロエミッション」を推進して廃棄物等の総排出量の削減を図る。
 - (4) 環境社会貢献
CSRの観点から、環境情報の公開と、地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する。
 - (5) 化学物質の適正管理
大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の防止に努めるとともに、人の健康及び生物との共存の観点から化学物質の適正な管理を推進する。
4. 環境教育、社内広報活動等により全社員の環境方針の理解及び環境保全に対する意識の向上を図る。また、関連会社に対し理解と協力を求める。

この環境方針は、社外に対して公開する。

2015年7月1日

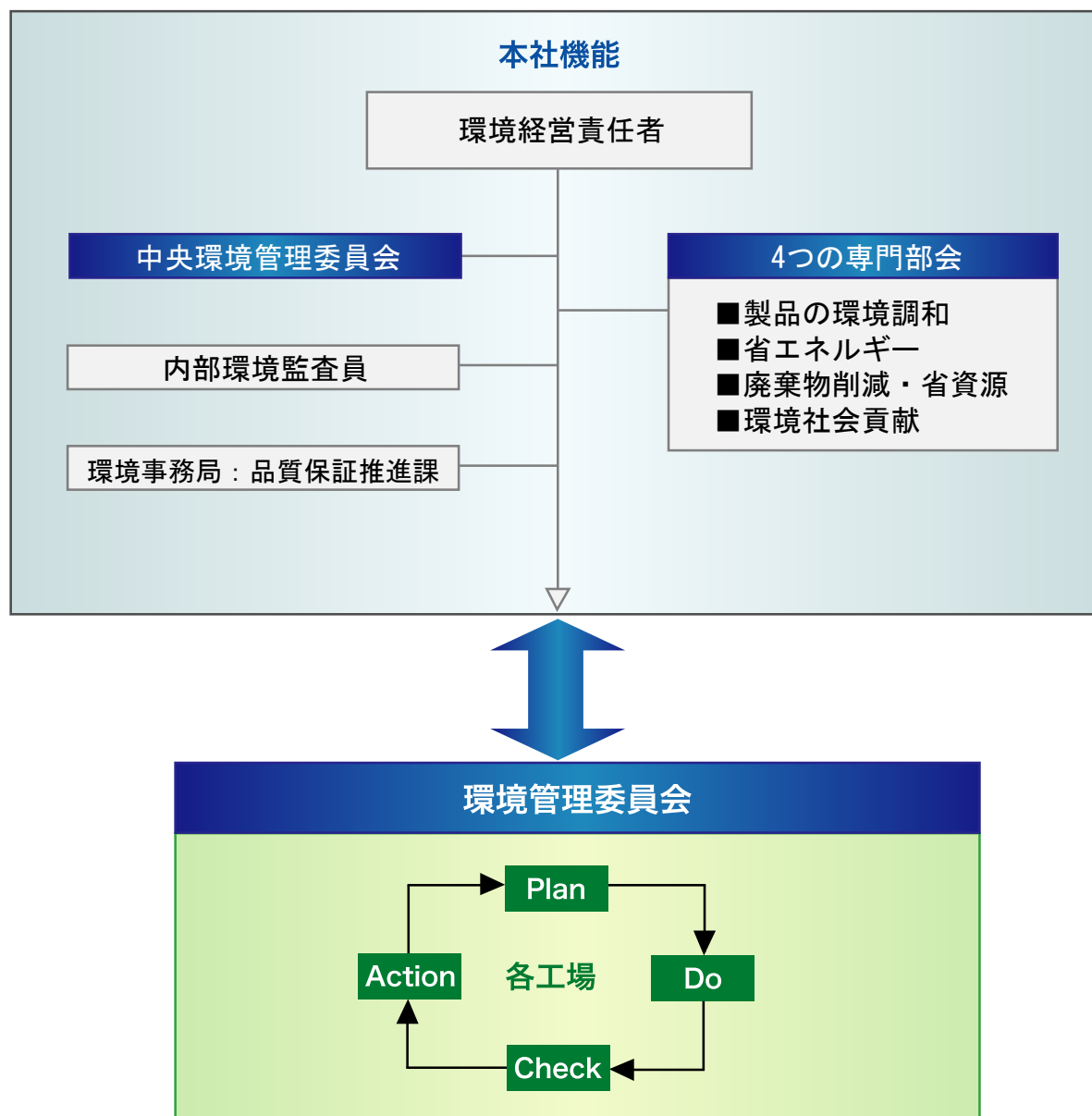
株式会社ニデック
環境経営責任者

手塚 勉

第12版

環境管理推進組織図

当社では、環境経営責任者の下に、中央環境管理委員会と4つの専門部会を設置しています。また、各工場に環境管理委員会を置き、工場ごとに改善点を見出し、改善に向けたPDCAサイクルをまわしています。工場ごとの活動を中央環境管理委員会に報告し共有することで、全社をあげた改善を続けています。



2014年度環境保全活動の目標と実績

2014年度の環境保全活動の目標と活動実績のまとめは、次のとおりです。

	2014年度の目標	目標 達成状況	活動実績
製品の環境調和	▶ 環境法規制のレビュー ▶ 新製品を中心としたエコ設計の推進 ▶ RoHS 指令対応	目標達成	▶ 海外 197件、国内 565件 / 計 762件 ▶ 製品アセスメントを新製品9機種で実施 ▶ 購入品の非含有保証書添付、社内にてサンプリング分析、製造委託先の実施監査等を実施
省エネルギー	▶ 売上比原単位電力消費量の削減 (2012年度比、2%削減)	98.4%	▶ エアコン：省エネタイプへ入替、 照明：省エネタイプへ入替、LEDに交換 工場ごとの個別対策を実施(チラー、 コンプレッサー、受変電設備等の見直し・交換) ▶ 中部電力の企業向け省エネ診断を本社・拾石工場、 浜町工場を受診
廃棄物削減・省資源	▶ 売上比原単位廃棄物排出量の削減 (2012年度比、7%削減)	96.7%	▶ 目標未達成要因：特別産業廃棄物を含めたの廃液の 大幅な増加(前年比：1.5倍) ▶ 廃棄物総排出量：599.6t/年間(産廃：368.7t、 有価物：230.9t) ▶ 最終廃棄物：2t(全て一般産業廃棄物、特別産業 廃棄物なし) ▶ 再資源化率：99.7%
環境社会貢献	▶ 環境報告書の維持、管理 (2004年度版より) ▶ エコキャップ回収継続 (2009/03より) ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加	目標達成	▶ 環境報告書の維持、管理：2014/07/17、2014年 度版をHPに掲載 ▶ エコキャップ回収量：330,326個、ポリオワクチン 提供人数 300人以上 提供人数累計 1,388人以上達成 ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加：春・秋の クリーンキャンペーンに参加
化学物質の 適正管理	▶ 具体的な目的・目標は、各工場または 主管部門、部署(職場)、グループにて 設定する ※法的要求事項及びその他の要求事項並びに 技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の 要求事項、利害関係者の見解も考慮する。	—	▶ 各工場または主管部門、部署(職場)、グループの 目標に付き、省略
工場の著しい 環境側面の低減	▶ 具体的な目的・目標は、各工場または 主管部門、部署(職場)、グループにて 設定する ※法的要求事項及びその他の要求事項並びに 技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の 要求事項、利害関係者の見解も考慮する。	—	▶ 各工場または主管部門、部署(職場)、グループの 目標に付き、省略

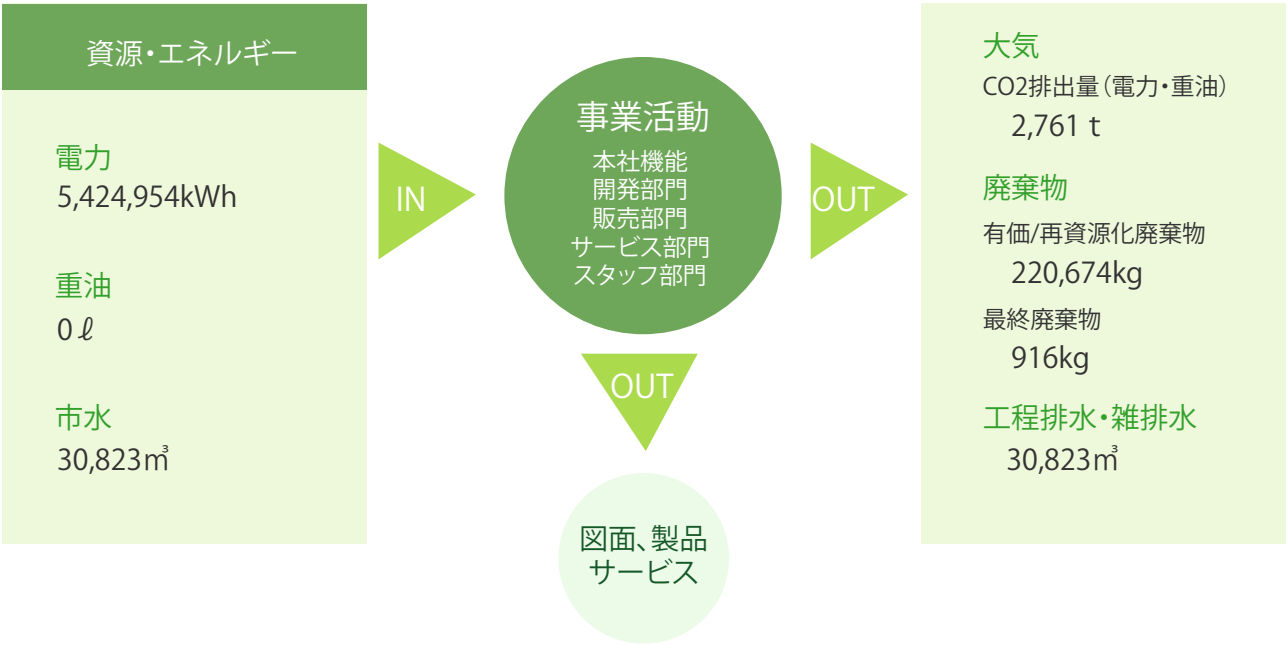
2015年度環境保全活動の目的・目標

2015年度は、環境保全活動をさらに進めるため、特に削減率の引き上げを中心として目標を見直し、活動を推進します。エコ設計については、製品単位での活動範囲を広げられるよう推進します。

	2013～2015年度の目的	2015年度の目標
製品の環境調和	▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ エコ設計(環境配慮設計)の推進	▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ 新製品を中心としたエコ設計の推進 ▶ EU: REACH 規則、RoHS II 指令(カテゴリー8 中心)への対応
省エネルギー	▶ 原単位電力消費量の削減(2015年度までに、2012年度比、3%削減)	▶ 売上比原単位電力消費量の削減(2012年度比、3%削減)
廃棄物削減・省資源	▶ 原単位廃棄物排出量の削減(2015年度までに、2012年度比、10%削減)	▶ 売上比原単位廃棄物排出量の削減(2012年度比、10%削減)
環境社会貢献	▶ CSRの観点から、環境情報の公開と地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する	▶ 環境報告書の維持、管理 ▶ エコキャップ回収継続 ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加
化学物質の適正管理	▶ 自主的な化学物質の管理の改善を促進し、人の健康及び生物との共存を目的として、化学物質の使用量の削減、品種の削減及びより環境リスクの低い代替品の使用を検討・推進する	▶ 具体的な目的・目標は各工場または主管部門、部署(職場)、グループにて設定する * 法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。
工場の著しい環境側面の低減	▶ 工場の環境影響評価より、環境に著しい影響を与える可能性のある側面(著しい環境側面)の低減に継続的に取り組む	▶ 具体的な目的・目標は各工場または主管部門、部署(職場)、グループにて設定する * 法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。

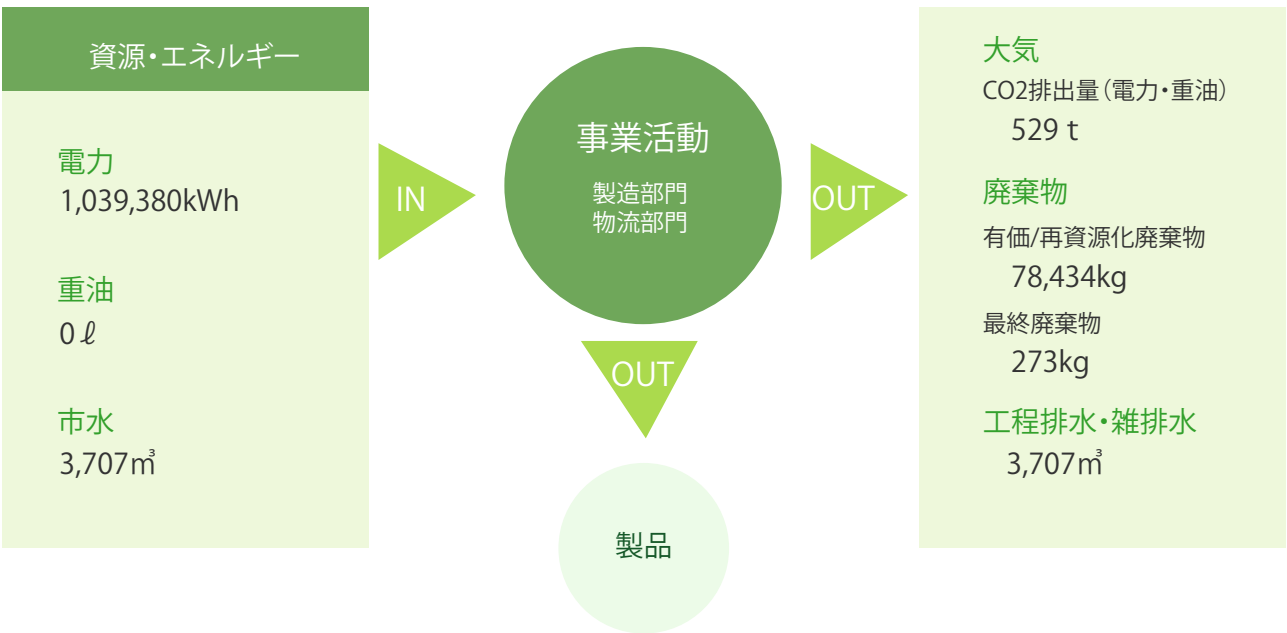
本社（拾石工場）第7棟を含む

会社運営における本社機能を中心に、開発部門、一部の製造部門、販売部門、サービス部門、スタッフ部門が業務を展開しています。



浜町工場

製品の部品購入、組立、部品や製品の検査、および物流の専門工場です。太陽光発電設備を備えています。

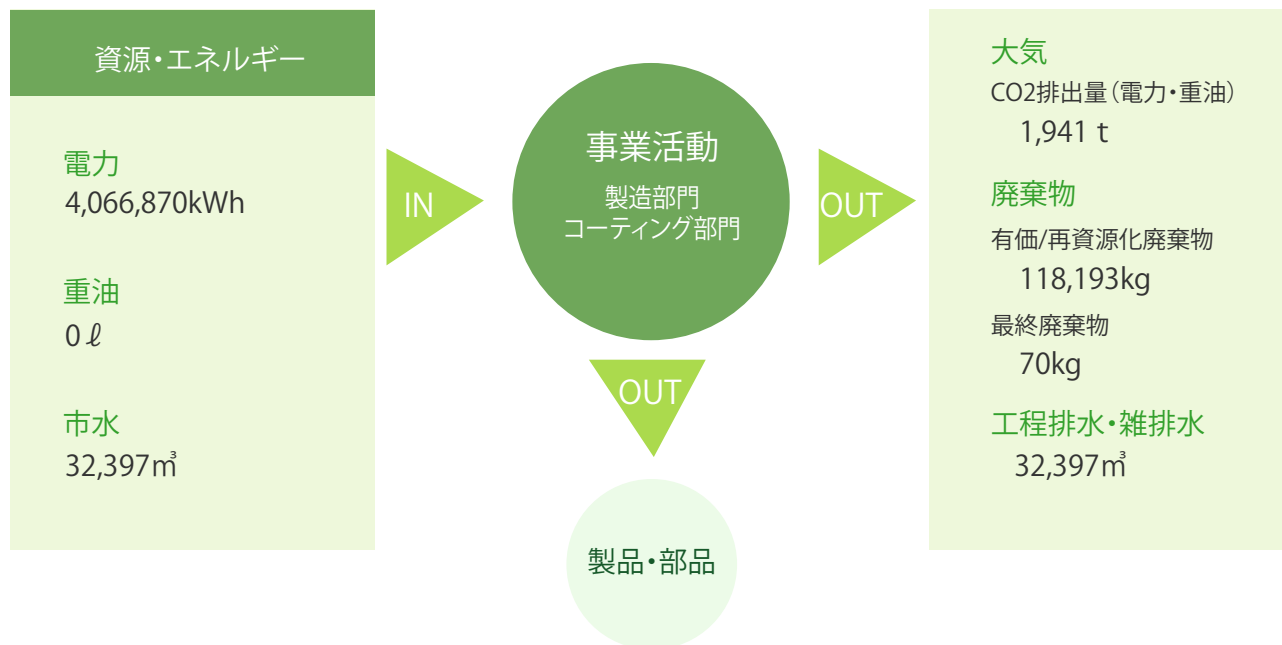


電気調整後排出係数 0.000509 (t-CO2/kWh)
A重油排出量算定係数 2.71 (t-CO2/kℓ)

工場の環境負荷概要

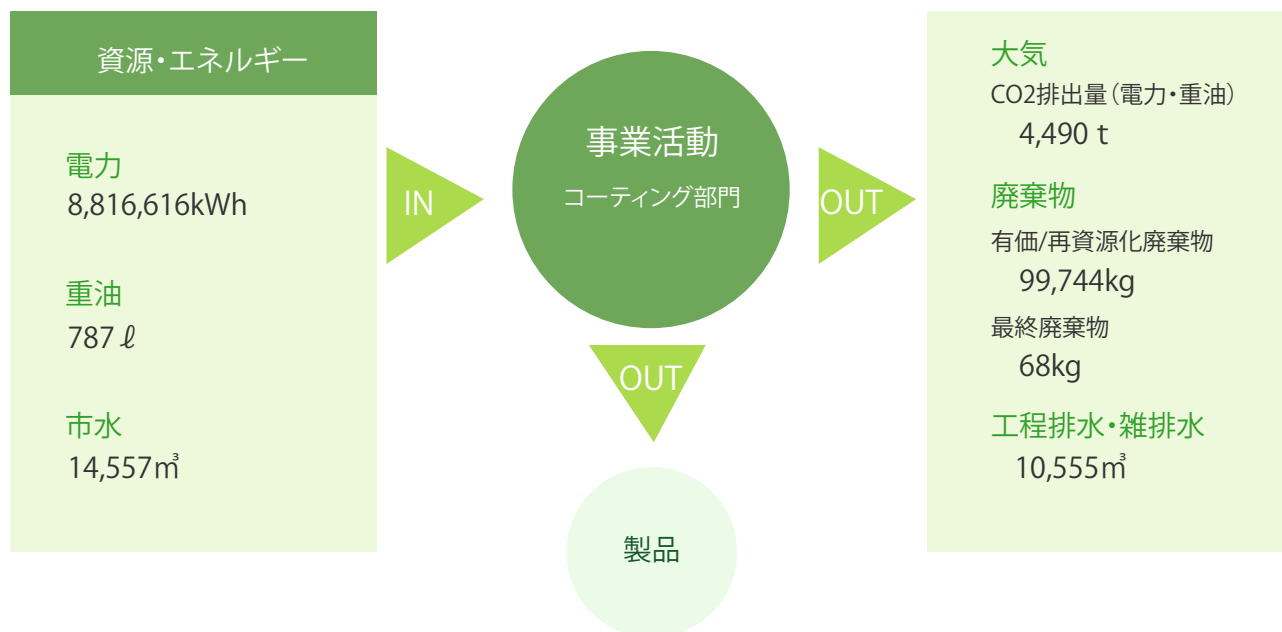
鶴ヶ浜工場

光学部品など製品内で使用する部品の製造や、眼鏡レンズへのコーティングをおこなう工場です。



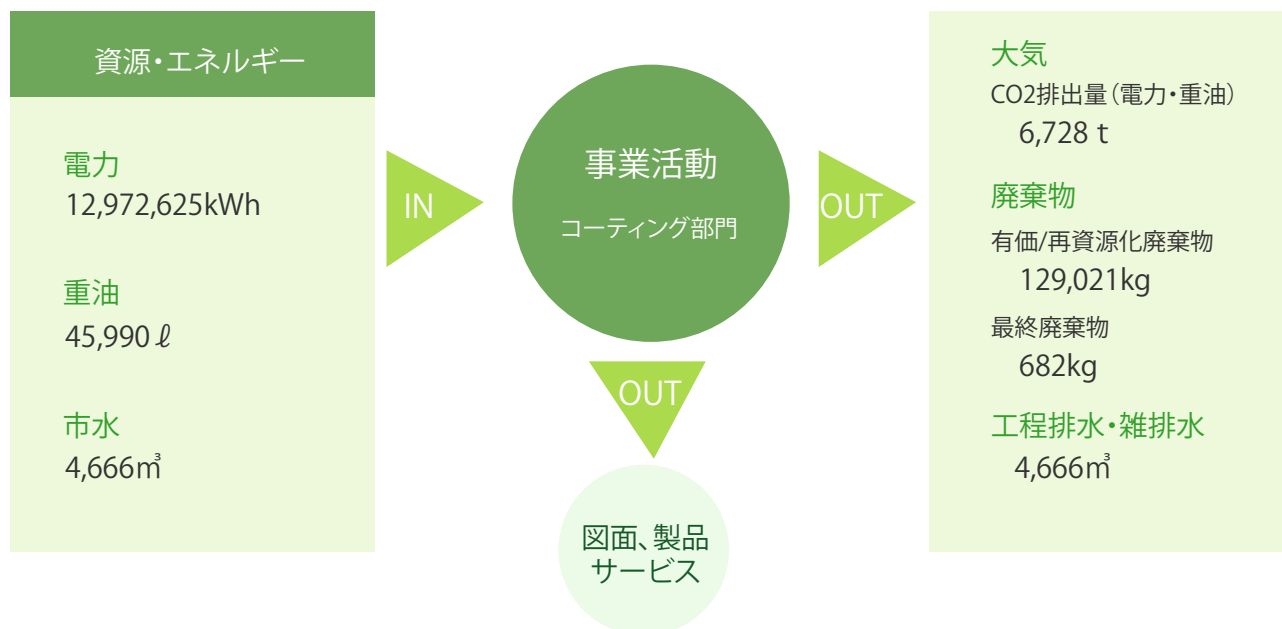
東浜工場

光学フィルターなどのコーティング工場として操業しています。



大沢工場

光学部品やディスプレイなどの基板表面へ、反射防止膜をはじめとするさまざまなコーティングをおこなう工場です。真空蒸着によるコーティング工場としては日本最大級の設備を備えています。また、太陽光発電設備を備えています。



身近なエコから始めよう！CO₂削減の取り組み

地球温暖化は、二酸化炭素(CO₂)などの大気中の濃度が増加することで起こります。このCO₂は、おもに化石燃料(石炭、石油など)を燃やすことで発生します。家庭では、電気、ガス、灯油、ガソリンなどのエネルギーを使っているため、家庭における“節電”“節CO₂”は、地球温暖化の原因になるCO₂の排出抑制に寄与します。この機会に、皆さんも取り組まれてはいかがでしょうか。

1日に1kgの二酸化炭素を減らすには

- ・アイドリングストップを心がける(1日5分): **107g**のCO₂削減
 - ・シャワーの時間を少し短くする: 2分でおおよそ**120g**のCO₂削減
 - ・エアコンを1時間つけないようにする: 1日でおおよそ**30g**のCO₂削減
 - ・運転しない日を作る(自転車通勤にするなど): 週に10km運転を減らせば1日あたり**300g**のCO₂削減
- などほんの一例ですが、ちょっとした工夫でもCO₂を減らすことができます。



CO₂は、皆さんの家庭のさまざまなところから排出されています。
身の回りの小さなことから、省エネを心がけましょう。



●全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>
●家庭でできる省エネ対策 <http://www.eco-taisaku.net/>

CO2排出量(電力及び燃料)

●使用資源・エネルギー別の排出量

各資源/エネルギーの使用量をCO2に換算した場合、電力によるCO2排出が大半であることが読み取れます。当社では、日頃から電力の節約に全社的に力を入れております。



電力

16,451.11t
(全体の97.8%)



A重油

126.77 t



ガソリン

222.21t



軽油

23.2t

総計 16,823.29t
前年比 145.4%

*2013年度から、社用車のガソリン・軽油使用量も報告に含めます(5工場+蒲郡支店)



太陽光発電の導入

当社は、燃料を使用したCO2の排出量を削減するため、2009年3月から浜町工場と、2013年2月から大沢工場の屋上に、また2014年から拾石工場第7棟に太陽光発電システムを導入しました。太陽光発電による電力は、浜町工場の電力の一部として利用しています。

2014年度の月別の発電量(*)実績は、日照量に応じて変動はありますが、年間約975,178kWhの電力を発電しています。

*パワーコンディショナー出力電力量

太陽光による発電により、どのくらいCO2の削減ができたのでしょうか。木が吸収するCO2量に換算して考えると、2014年度は約21,902本の杉の木を植樹したことに同じ効果を得られました。



拾石工場第7棟に設置した太陽光パネル



約21,902本

植樹の本数 = 発電量(kWh) × 0.02246

杉の木⇒1本あたり約14KgのCO2を吸収

計算係数:「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」 環境省・林野庁を参考に計算式を算出

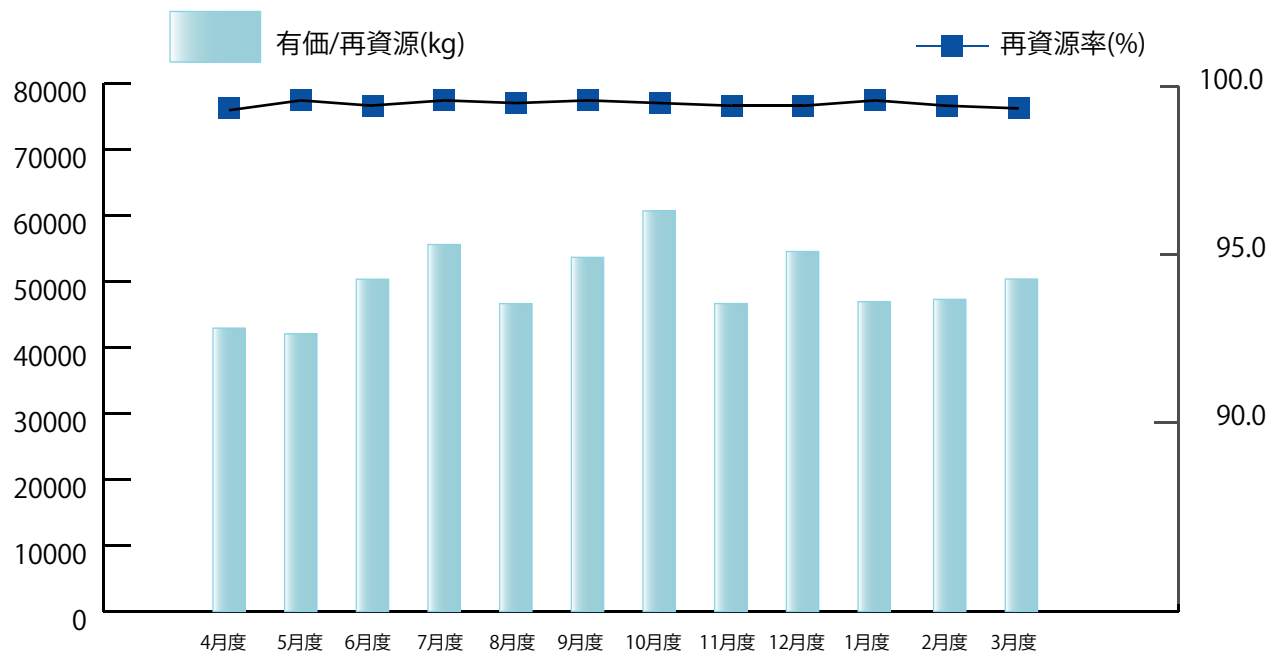
廃棄物量/PRTR法対象化学物質使用量

●廃棄物量／再資源化率の月別推移

廃棄物のゼロエミッション達成に向け、最終廃棄物の内容分析をし、再資源化率の向上を目指して全社的に活動を展開しています。2014年度も、99%以上の再資源化を通年で達成することができました。

単位：kg

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	合計
有価/再資源	42,943	42,045	50,331	55,585	46,632	53,643	60,672	46,643	54,531	46,927	47,277	50,360	597,588
最終廃棄	219	80	215	108	151	119	155	172	244	110	167	269	2,009
合計	43,162	42,126	50,546	55,693	46,783	53,762	60,826	46,814	54,775	47,037	47,444	50,629	599,597
再資源化率	99.5%	99.8%	99.6%	99.8%	99.7%	99.8%	99.7%	99.6%	99.6%	99.8%	99.6%	99.5%	99.7%



●特別管理産業廃棄物量

2014年度は、対前年比で147%と排出量が増加しました。

拾石工場の生産量増加による排出量増加が主な要因ですが、今後も最低限の廃棄物量に留められるよう、排出量のチェックと削減努力を強化します。

	拾石工場	浜町工場	鶴ヶ浜工場	東浜工場	大沢工場	計	対前年比
排出量	92,729.4	4,085.6	30,797.0	22,803.4	2,114.5	152,529.9	147%

単位：kg

●PRTR法対象化学物質使用量

PRTR法(*)に基づく第一種指定化学物質の2014年度の使用量について、経済産業省への届出対象となる鶴ヶ浜工場の使用量です。

鶴ヶ浜工場HCFC-225：1,000kg (2013年度より -450 kg)

*特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律

環境調和型製品のご紹介

当社は、環境関連法規制への対応はもちろんのこと、環境への負荷を低減した製品の開発・製造を推進しています。2014年度には4つの環境調和型製品を発売いたしました。いずれも環境に配慮した設計により、性能や機能を向上させながらも、製品の分解性の向上および材料の再資源化を容易にし、環境への負荷低減を実現した製品です。

●2014年度に発売した環境調和型製品

ハンドヘルドレフケラトメータ／ハンドヘルドレフラクトメータ HandyRef-K/HandyRef

眼の他覚屈折度と角膜曲率半径の測定を使用目的とした医療機器です。屈折度測定として被検眼の屈折状態から球面屈折度、円柱屈折度、乱視軸角度を測定します。角膜曲率半径測定では、角膜の強弱主経線方向の曲率半径（角膜屈折力）、および角度と角膜乱視量を測定します。ハンドヘルドタイプの特長として、据置型装置のあご台に顔を固定できない小児の測定や、病室、手術室で横たわった被検者の測定をすることができます。



眼底カメラ付き光干渉断層計 Retina Scan Duo

眼底、前眼部、網膜の形状または病変を非接触、無侵襲で観察する眼撮影装置です。本装置には以下のような機能があります。

- ・波長880nmの赤外光を使用した光干渉計の原理により、網膜の断層画像（OCT 画像）を撮影します。
- ・散瞳剤を使わずにカラー眼底撮影を行う無散瞳眼底カメラ機能を搭載し、カラー眼底画像を撮影します。
- ・カラー眼底画像を撮影する光路に光学フィルターを挿入することにより、自発蛍光撮影（FAF 撮影/ オプション）をします。

OCT 撮影、カラー眼底撮影、自発蛍光撮影それぞれの撮影画像は、装置本体と接続されるコンピューターに保存され、画像ファイリングソフトウェアNAVIS-EXにより撮影画像の管理および多彩な画像解析ができます。



無散瞳眼底カメラ付きフルオート・マイクロペリメータ MP-3

被検眼眼底の指定部位の視感度を検査する機能と、被検眼眼底のカラー眼底画像を撮影する機能を有し、双方の結果を同一画面上に合成することで、被検眼眼底画像と網膜視感度分布状態を直接比較評価可能とした眼底（局所）感度検査装置です。

視感度分布のマッピングおよび眼球等の観察、撮影または記録に用いることができます。



瞳孔間距離計 PM-700

デジタル液晶表示の瞳孔間距離計（PD メータ）です。

眼鏡レンズを適切に装用するための瞳孔間距離を測定することができます。



製品の環境調和専門部会からのメッセージ

環境調和型製品の創出においては、製品のライフサイクル全体から環境負荷を把握し、さまざまな角度からの改善を進めています。

環境負荷低減は「製品アセスメント実施規程」を基に、企画・設計段階から負荷低減を考えた活動が重要と位置づけ、開発部門や製造部門、並びにサプライチェーンと連携し、積極的な改善に取り組んでいます。

具体的には、再資源化が容易な製品材料の選択、製品の分解を容易にするための部品点数やネジの数の減少、包装資材の省資源化、製品廃棄時における廃棄手順書の提供などです。また、欧州規制（RoHS、WEEE）や中国RoHSへも適合しています。

今後も環境調和型製品の開発を推進し続けることにより、地球環境の負荷低減に努めていきます。

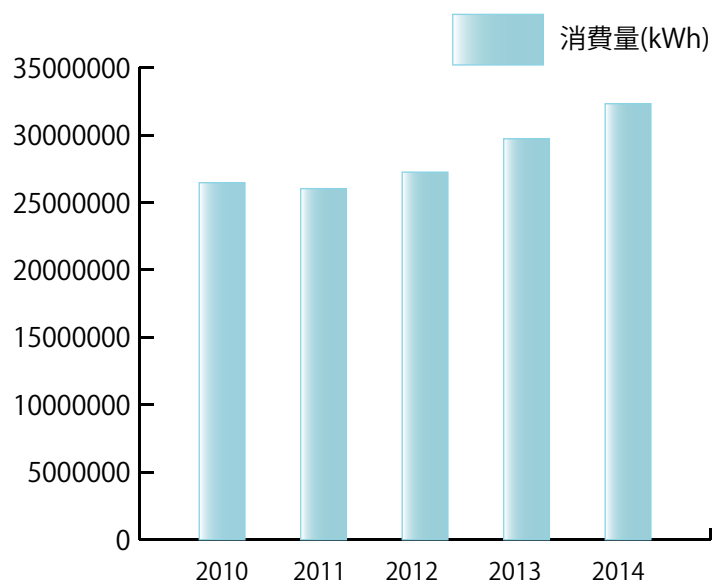
製品の環境調和専門部会
部会長 嶋崎 寛（品質保証部 部長）

電力/重油

●電力消費量

鶴ヶ浜工場、浜町工場については消費量を削減することが出来ましたが、全体としては生産量増加により電力消費量を低減出来ませんでした。

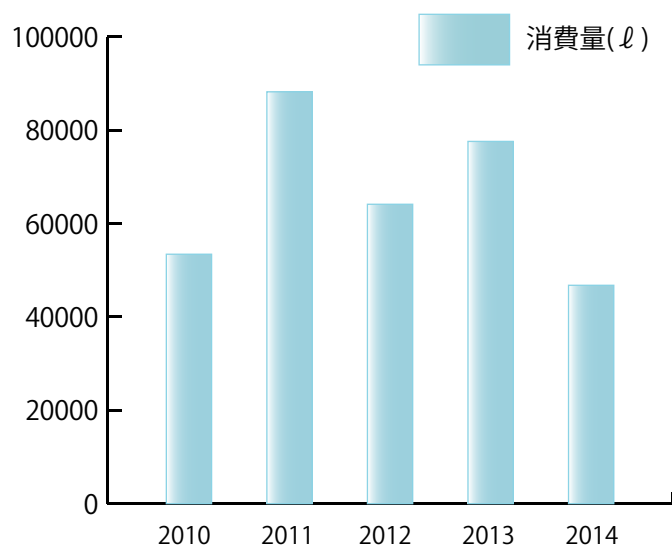
年度	消費量(kWh)
2010	26,465,755
2011	26,030,508
2012	27,249,207
2013	29,723,670
2014	32,320,445



●重油消費量

当社は電力ピーク補填用発電に使用しています。昨年度は、夏場の電力ピーク調整と生産調整などにより減少しています。

年度	消費量(ℓ)
2010	53,434
2011	88,222
2012	64,136
2013	77,599
2014	46,777

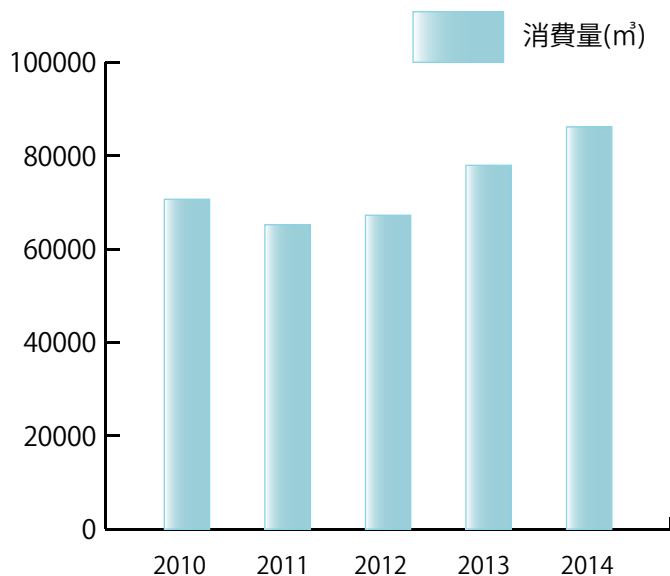


市水/最終廃棄物

●市水消費量

拾石工場 第7棟が生産稼動しており、使用量も増加しました。

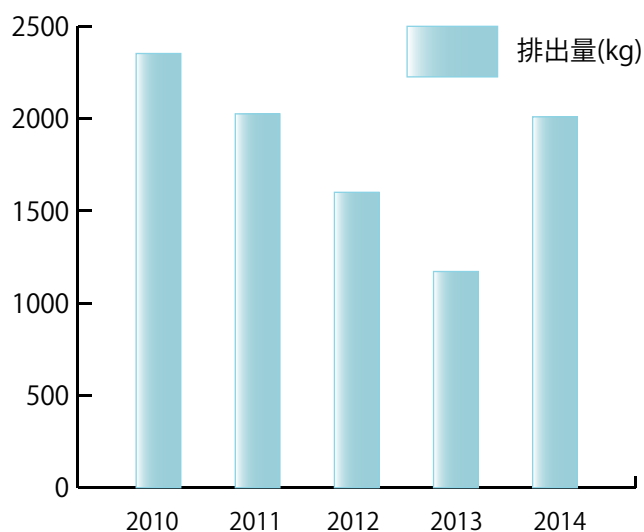
年度	消費量 (m ³)
2010	70,650
2011	65,203
2012	67,232
2013	77,927
2014	86,150



●最終廃棄物排出量

生産増加に伴い、最終廃棄物も増加しました。リサイクル処理にまわすよう検討調査していきます。

年度	消費量 (kg)
2010	2,352
2011	2,025
2012	1,600
2013	1,171
2014	2,009



当社のゼロエミッション

当社の「ゼロエミッション」とは、「工場からの廃棄物総排出量の有価/再資源化率を99%以上」とする。
有価/再資源化率は、「(総排出量－最終廃棄物)÷総排出量」で算出する。

CSRに関する取り組み

当社では、環境活動以外にも、CSR（企業の社会的責任）の観点から、本業を通じ、また当社でできる活動である地域の美化活動などの環境保全活動や、各種の社会貢献活動に取り組んでいます。2014年度に当社が実施した活動の一部をご紹介します。

●エコキャップの回収

2009年から継続してエコキャップの回収に取り組んでいます。2014年度は、全社330,326個のキャップが集まり、ワクチンにして300名分以上が集まりました。今後も、この活動を継続して取り組みます。



●クリーンキャンペーンへの参加

年に2回の蒲郡市のクリーンキャンペーンに合わせ、各工場の周りを清掃する活動に継続的に参加しています。また、ニデック・フィッシングクラブも、14年間連続で蒲郡市のクリーンキャンペーンでの清掃活動にボランティアとして参加しており、定期的な活動として定着しています。



●日本点字図書館への寄附

当社の有志による日本点字図書館への寄附活動も、定期的な活動として定着しています。2014年度は、運営のボランティアスタッフも増え、活動に広がりを感じる取り組みとなりました。視覚障害者のための音声ブックと日本点字図書館の運営費用として寄附をおこないました。



写真：点字図書とCD図書

●使用済み切手の回収と寄贈

2014年度使用済み切手を回収し、社会福祉法人視覚障害者支援総合センターへ寄贈しました。



- タンザニア疫学調査・検診に同行し、
検診実務の補助作業、装置のメンテナンスを実施**
国際貢献の一環として、金沢医科大学眼科学教室
およびアフリカのタンザニアMuhimbili大学眼科学
教室との共同研究でおこなわれた調査・検査に
同行し、検診実務の補助作業、装置のメンテナンス
をおこないました。



- 田原市内の小学校にて出前授業「眼を大切に」を実施**
地域貢献の一環として、目について興味を持って
いただけるよう、小中学校向けの講演活動を実施
しております。”盲点”を探す体験や、自身の”利き目”
を確認し、眼の構造や「近視」、「遠視」、「乱視」など
を紹介しました。また、睡眠の質を高めるために、
スマートフォンや携帯ゲーム機との付き合い方など
生活習慣の改善を促しました。



- 蒲郡市内の小学校にて熱気球出前教室を実施**
地域貢献の一環として、本物の熱気球を使用した
出前授業を開催しました。児童の皆さんや、先生
に係留搭乗を体験していただいたほか、熱気球
の構造や飛行について紹介しました。



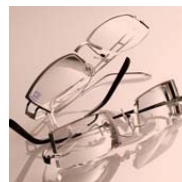
名 称	株式会社ニデック
本 社	〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜 34番地14 Tel. 0533-67-6611
代 表 者	代表取締役社長 小澤素生
設 立	1971年7月7日（創業日8月8日）
資 本 金	4億6189万円
売 上 高	307.9億円（2010年度） 314.8億円（2011年度） 335.3億円（2012年度） 372.7億円（2013年度） 402.4億円（2014年度）
従業員数	1,603名（2015年3月末日現在）

●事業内容



医療分野

眼科向け手術装置、レーザ機器、検査診断装置などの開発・製造・販売を総合的にこなっています。近年では、事業の場を健診分野にも広がっています。



眼鏡機器分野

視力測定、レンズ測定、レンズ加工など眼鏡づくりに関わる製品を提供しています。

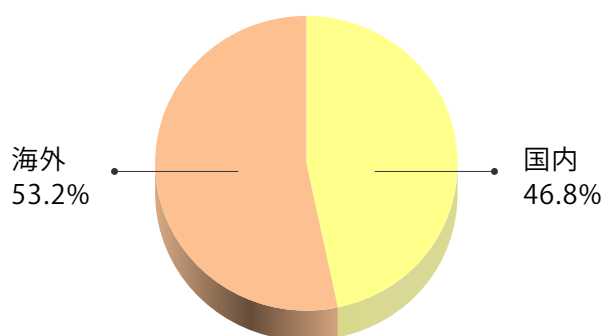


コーティング分野

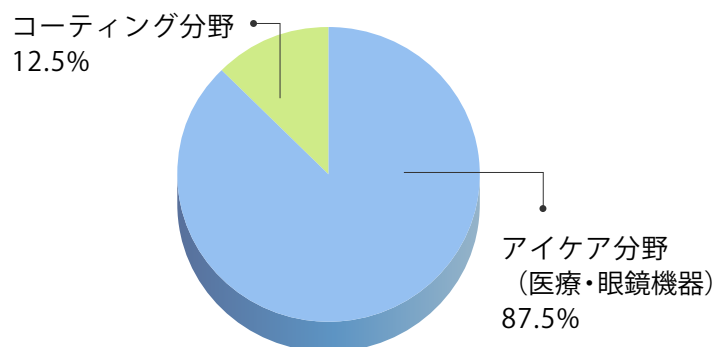
コーティングは、光学材料などへの反射防止や、特定波長だけを透過・反射させる“光を操る先端技術”です。メガネレンズをはじめ、情報通信・自動車・医療・液晶ディスプレイなど、多彩な分野で活用しています。

●2014年度売上比率データ

海外輸出比率



売上構成比率



●本社(拾石工場)



住所 〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜34番地14
 環境管理責任者 総務部 部長 近藤雅人
 敷地面積 29,969 m²
 建物(延) 16,644 m²
 従業員数 699名
 設置 1976年(昭和51年)

●東浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町73番地1
 環境管理責任者 コート生産部 部長 石井雅敏
 敷地面積 13,155 m²
 建物(延) 8,195 m²
 従業員数 56名
 設置 1996年(平成8年)

●浜町工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町67番地4
 環境管理責任者 機器製造部 部長 加藤真吾
 敷地面積 22,200 m²
 建物(延) 13,327 m²
 従業員数 318名
 設置 1984年(昭和59年)

●大沢工場



住所 〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町大沢27番地4
 環境管理責任者 コート事業企画室 室長 柴田芳宏
 敷地面積 57,396 m²
 建物(延) 11,032 m²
 従業員数 120名
 設置 2000年(平成12年)

●鶴ヶ浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町23番地1
 環境管理責任者 部品製造部 部長 植村克彦
 敷地面積 14,820 m²
 建物(延) 6,871 m²
 従業員数 95名
 設置 1989年(平成元年)

敷地面積、建物(延)、従業員数：2015年3月31日時点
 従業員数：本頁では役員、顧問、嘱託／パート／派遣社員を含む

●報告書基本情報

報告対象組織：株式会社ニデック

本社(拾石工場)
浜町工場(研究棟除く)
鶴ヶ浜工場
東浜工場
大沢工場

報告対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

発行日：2015年7月24日

作成部署：環境社会貢献部会/企画部 広報課

●お問い合わせ先

企画部 広報課

Tel: 0533-67-6753

Fax: 0533-67-6610

E-mail: info@nidek.co.jp

※ 当社に関する詳しい情報は、Webサイトをご覧ください。
URL <http://www.nidek.co.jp>

